

## 従業員とのかかわり

従業員も重要なステークホルダーという認識のもと、従業員一人ひとりが安心して仕事に全力投球できる環境の整備に取り組んでいます。

### 雇用と処遇

#### □採用活動

ハリマ化成では、雇用機会均等と多様性を尊重し、人種・宗教・国籍・年齢・性別などによって差別しないことを基本方針としています。また、ホームページ、各種広報媒体を活用し、応募機会を広く提供しています。

特に、社会問題となっている就業率の低下や安定雇用の確保に対しても、中途採用を推進し、また派遣社員から正社員への雇用の転換を進めるなど雇用機会の拡大と雇用の安定に努めています。

#### □高齢者継続雇用制度

2006年4月より、定年退職者が健康で60歳以降も継続して働く意欲がある場合で、かつ一定の条件を満たし会社との合意ができた場合は、継続して働くことができる継続雇用制度を導入しています。

#### □育児休業・介護休業制度

ハリマ化成では、早くから育児休業制度(1992年)、介護休業制度(1998年)を導入し、仕事と家庭の両立を支援するための制度を整備しています。

#### <育児休業等の取得実績> (人)

	2004年度	2005年度	2006年度
産前産後休業	1	2	1
育児休業	1	2	1
介護休業	0	0	0

### 人材育成

ハリマ化成では、従業員一人ひとりの能力向上を支援するために教育研修にも力を入れています。また、自己啓発を支援するため通信教育や語学研修費用の一部補助を行っています。

#### [主な研修プログラム]

- 新入社員研修(フォロー研修含む)
- 留学制度(海外留学、語学留学、国内留学)
- 管理職研修
- 選抜研修
- リフレッシュ研修(2年目社員研修)
- 幹部候補者研修(上級職クラス)
- 昇格者研修
- 経営幹部候補者研修(管理職クラス)
- 役職者研修

また、2007年3月より、コンプライアンス教育の一環として、基本の重要性を再認識し徹底するため、「基本動作研修」を実施しています。

### 評価、報酬制度

ハリマ化成では、「人を大切にグローバルカンパニー」を目指す組織風土の醸成、次代を担う人材の育成に資する制度として、成果だけでなく、行動評価(プロセス)を評価項目として取り入れ、更にはチャレンジに対して、その努力にも報いる加点主義を基本方針とした透明性の高い評価制度を導入しています。

従業員は、役割責任にリンクした行動評価基準の公開により、一人ひとりが担っている職務に対して求められる行動、能力、資質を理解し、自らが育成課題を掲げ、その結果が報酬に反映されます。また、現在の役割基準を上回るチャレンジ課題に挑戦する制度を設けており、このチャレンジ課題は未達成であっても評価の減点はなく、達成すれば加点する制度として運用しており、果敢にチャレンジできる風土の醸成と人材育成のスピード化

を図っています。

成果主義に束縛されず、行動評価とチャレンジ課題への挑戦を通して、働きがいのある環境を整備しています。

特に、制度の運用面では、評価者訓練において、「評価のための評価制度」ではなく、「育成のための評価制度」であることを徹底し、制度が高い納得性をもって、より効果的に実効性を持って運用されるよう努めています。



### 福利厚生

ハリマ化成では、従業員が持てる能力を最大限発揮できる環境を作り出すための福利厚生制度や、従業員自身が病気になったり、家族の介護が必要になったときなど、いざというときのセーフティネットとなる制度も整備しています。

2004年10月に導入した長期休業補償制度は従業員が病気やケガで就業できなくなった場合に、収入の減少をカバーし家

族の生活をサポートするための制度で、社会保険での補償期間18ヶ月を超えて就業できない状態が継続した場合に、最長満60歳まで収入をカバーする制度です。本制度では会社が基準給与月額の60%を補償し、従業員の任意加入上乗せにより最大基準給与月額の90%が補償されます。また、本制度では長期休業者への復職支援も行っています。

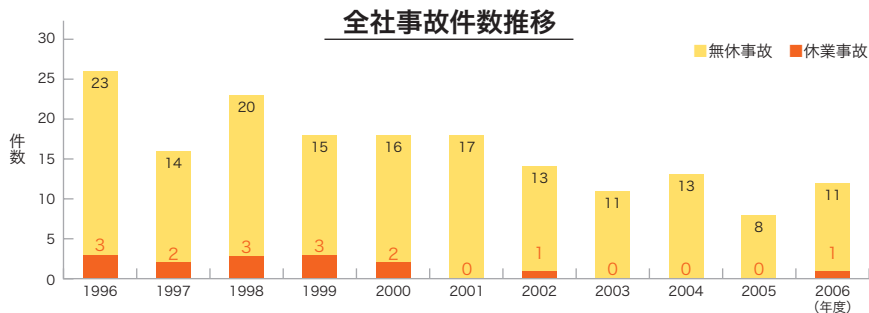
# 安全活動

安全をすべてに優先させるという基本理念のもとに、働く人の安全と健康を確保する取り組みを行っています。

## 安全活動

労働災害を撲滅するために安全教育をはじめKYT、ヒヤリハット、安全パトロールなどのさまざまな運動を行ってきました。残念ながら昨年度より事故件数が増えました。同じような事故をなくすため、全員で再発防止に取り組んでいます。

安全件数推移グラフ 年度集計は1月～12月



### 2006年度主な重点実施事項

- ・KYT競技会の開催
- ・放水競技会の開催
- ・委員会、役職による安全パトロール
- ・講演会、ビデオ研修、立哨、PRニュース等による意識高揚
- ・ヒヤリハットキャンペーン

### 責任者の声



安全衛生推進委員会  
(加古川サイト)  
上玉利委員長

#### 全員でベクトルを合わせる

加古川サイトの安全衛生に対する意識高揚策として全体朝礼で、事故職場からの口頭報告だけでなくプレゼン形式でより一層のインパクトを与える場としました。また、事故発生職場においてはKYTを実施、事故対策を全員で考え再発防止に

取り組んでいます。安全衛生の取り組みは、全員でベクトルを合わせ、安全な人づくりを推進するために委員会とともに職制指導型の安全衛生教育の強化が大切だと思っています。



職場の事例を用いたKYT競技会。  
(年8回実施)



新入社員に対するKYTの教育  
(2006.4.10)



放水競技会による放水操作の習得。  
(年6回実施)



全国安全週間の一環として、他会社から講師を招き、安全に関する講演会を開催した。  
(2006.7.5)



消防署レスキュー隊員の方を講師に招き、救急活動および交通事故に関する講話を聴講した。  
(2006.4.10)



がんの予防、治療に関する衛生講演会を開催し、健康の重要性を再認識した。  
(2006.10.5)



春の全国交通安全週間の立哨  
(2006.4.1)



事故職場でのKYT実施。事故発生箇所に事故内容を掲示し、再発防止の意識を高めた  
(2006.5.18)



【注釈】

KYT: 危険のK、予知のY、トレーニングのTとそれぞれの頭文字を取ったのがKYTです。作業にかかる前、ミーティングでその作業に潜む危険を短時間で話し合い、これに対する対策を決め行動目標を立て、一人ひとりが指差呼称しながら実践するプロセスです。

## 社会とのかかわり

ハリマ化成では財団活動などを通じて、科学技術の振興、芸術、文化活動の支援や人材育成に取り組んでいます。

### 松籟科学技術振興財団

財団法人松籟科学技術振興財団(理事長:長谷川吉弘)は、当社創業者である長谷川末吉名誉会長が、長年にわたるトール油事業の功績が認められ、1982年に科学技術庁(現文部科学省)から「科学技術功労者賞」を受賞したのを機に、科学技術に関する調査・研究、振興や国際交流に対する助成を目的に1983年に設立されました。設立以来24年間で、延べ471件、総額5億2千420万円を助成していますが、ノーベル化学賞を受賞された野依良治博士は第4回(1986年)に当財団の助成を受けられています。

今年度は、全国の大学や研究機関から104件の応募があり、内17件に対して、総額1千700万円の助成金が贈られました。贈呈式で長谷川理事長は「今後、団塊世代の大量退職が始まり技能継承をどうするかが問題とされています。資源に恵まれないわが国が生き残るために、これまで培われた高度な技術を次世代に継承して新しい産業を創出し、科学技術立国として揺るぎない地位を維持しなければならない。当財団もその一端を担っていきたい。」と挨拶しました。

※財団法人松籟科学技術振興財団【設立:1983年3月1日、所管官庁:文部科学省、基本金:5億4千25万円】



助成を受けた研究者17名と長谷川理事長(第24回助成金贈呈式)2007年2月23日

当社発祥の地である兵庫県加古川市は、一級河川加古川の恵みを受けて発展したことから、1995年に川との共生を考える「全国川サミットin加古川」を開催し、その一環として、全国公募の「川の絵画大賞展」を毎年開催しています。当社の芸術文化

活動への貢献は多岐にわたりますが、当社では第1回「川の絵画大賞展」から同事業へ協賛を続けています。また、長谷川末吉名誉会長が寄贈しました「松風ギャラリー」は、芸術文化活動の拠点施設として、多くの市民に利用されています。



川の絵画大賞展ポスターと感謝状



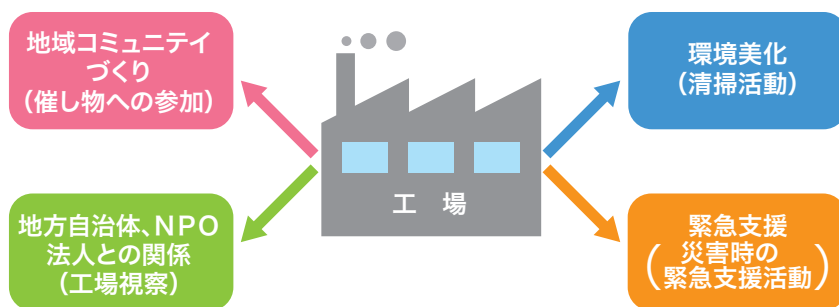
芸術文化の拠点として市民に利用されている「松風ギャラリー」(兵庫県加古川市)

# 社会とのコミュニケーション

「地域とともに発展することが企業の使命である」との認識にもとづき、地域の皆様や社員とのよりよい関係づくりを心がけています。

## 情報開示

工場視察を通して当社の事業活動や環境への取り組みなどを紹介し、社会の一員として、地域の一員として相互理解を深めています。



インターンシップ制度として近隣高校生が職場を体験しました。(2006.11.7)



小学5年生約50名が工場見学、そして活発な質問が出されました。(2006.11.8)



工場周辺の剪定を実施しました。茨城工場(2007.1)



工場周辺の美化に取り組みました。四国工場(2006.6)



研究所周辺の清掃実施。筑波研究所(2006.6)



年末に加古川製造所の周辺を清掃しました。加古川製造所(2006.12.28)



環境月間に工場周辺の美化に取り組みました。加古川製造所(2006.6.12)

防災への対応を怠らず、日業業務の中で企業防災を心がけています。

【注釈】

AED:多くの突然死の原因である心臓の危険な状態のとき、心臓を蘇生するように電気ショックを与える機械です。119番で救急車を呼んでから到着するまで平均6.5分かかります。現場に居た人がAEDを3分後に使えば70%助かりますが、救急隊員が到着してからでは35%しか助かりません。

## ●防災訓練

当社内の防災訓練は、各拠点において毎年実施しています。昨年度からは防災管理体制の見直しを行い、拠点に応じたより実践的な内容としました。また、防災グッズを全社員に配布し災害時に身につけるよう徹底しました。訓練ではオレンジ色の防災グッズが目を引きました。一部拠点についてその取り組みを紹介します。

### 加古川製造所での総合防災訓練(2006.12.4)

加古川市東消防署のご協力、また加古川警察署、町内会の方々、地元新聞社の視察のもと訓練を行いました。今年、新たに加古川製造所にAED(自動体外式除細動器)を設置したことから従業員によるAEDを使った訓練を実施しました。



今年から防災グッズを身につけて訓練を行った



すべての人が初期消火訓練に携われるよう女性も参加した。



自家発電設備を設置し、災害発生時、社内及び近隣住民への電気供給に備えます。



災害時電話が使用困難なため衛生電話を設置しました。訓練では中国との電話連絡を行いました。



加古川市東消防署の協力のもと救出訓練を行いました。



消防署、自衛消防隊との合同放水訓練を行いました。



AEDを用いた救急処置訓練を行いました。

### 東京工場(2007.2.23)

草加市消防署のご協力のもと、初期消火、AED体験、煙体験ハウスの訓練を実施しました。



消防員の指導のもとAEDを使用した救急訓練。



煙ハウスを体験。

### 茨城工場(2006.12.1)

阿見町消防本部のご協力のもと全従業員が参加して訓練を行いました。



煙が充満した仮設部屋からの脱出体験。

### 大阪本社 (2006.11.29)

大阪本社フロアーでは、通信連絡班、消火班、避難誘導班、応急救護班などの役割分担を決め、訓練を行いました。写真は、避難訓練、初期消火訓練の様子。



### セブンリバー

セブンリバー本社において地震発生を想定した避難訓練を実施しました。防災グッズを各自所持して集合しました。(2006.12.22)



セブンリバー工場地下ボイラー室よりの火災発生を想定し消火訓練を実施した。(2006.8.19)



# サイトレポート ハリマ化成 国内事業所

## 加古川製造所、中央研究所、ハリマM.I.D

所在地 兵庫県加古川市野口町水足671-4  
電話番号 079-422-3301

項目	単位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kℓ	2,501	2,519	2,688	3,353	3,196	-5%
燃料(化+バイオ)	原油換算 kℓ	13,053	12,110	12,105	19,384	16,828	-13%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	8,099	7,893	8,206	1,558	8,221	428%
NO <sub>x</sub>	kg	27,300	20,100	20,800	43,400	33,500	-23%
SO <sub>x</sub>	kg	69,400	70,600	61,400	45,000	24,000	-47%
排水量	m <sup>3</sup>	484,336	397,660	405,910	458,509	519,230	13%
COD	kg	1,889	1,233	1,380	1,926	2,077	8%
廃棄物発生量	t	2,681	2,521	2,690	2,457	2,702	10%
社外処理量	t	1,296	1,310	1,439	1,212	1,500	24%
最終埋立量	t	144	123	110	64	32	-50%
大気排出量	kg	6,265	4,447	3,800	4,149	3,957	-5%
移動量	kg	9,469	7,694	7,330	10,950	15,781	44%

## 富士工場

所在地 静岡県富士市比奈311-9  
電話番号 0545-38-2254

項目	単位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kℓ	1,142	1,167	1,289	1,236	1,244	1%
燃料(化+廃油)	原油換算 kℓ	2,449	2,550	2,641	2,672	2,698	1%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	8,154	8,460	8,852	8,876	8,979	1%
NO <sub>x</sub>	kg	3,597	3,737	4,080	4,056	4,029	-1%
SO <sub>x</sub>	kg	170	740	190	270	265	-2%
排水量	m <sup>3</sup>	157,500	158,400	194,730	129,913	186,465	44%
COD	kg	1,449	539	682	259	1,436	454%
廃棄物発生量	t	1,687	1,685	1,506	1,555	1,722	11%
社外処理量	t	502	437	233	266	433	63%
最終埋立量	t	0	0	13	0	0	0%
大気排出量	kg	213	203	218	209	203	-3%
移動量	kg	198,064	40,039	3,926	3,344	3,928	17%

## 東京工場

所在地 埼玉県草加市稲荷6-18-1  
電話番号 048-931-4311

項目	単位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kℓ	461	426	425	406	412	1%
燃料(化+廃油)	原油換算 kℓ	1,426	1,330	1,290	1,347	1,428	6%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	4,541	4,222	4,118	4,283	4,376	2%
NO <sub>x</sub>	kg	2,197	2,133	2,020	2,104	2,165	3%
SO <sub>x</sub>	kg	899	863	827	862	887	3%
排水量	m <sup>3</sup>	97,419	75,937	69,467	62,266	68,905	11%
COD	kg	380	334	285	268	217	-19%
廃棄物発生量	t	1,468	1,329	1,318	1,302	1,374	6%
社外処理量	t	322	286	238	252	256	2%
最終埋立量	t	7	0	0	0	0	0%
大気排出量	kg	7,654	4,147	3,244	3,019	2,643	-12%
移動量	kg	24,450	22,190	5,930	20,661	15,270	-26%

## 茨城工場

所在地 茨城県稲敷郡阿見町大字香澄の里13-1  
電話番号 029-889-2911

項目	単位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kℓ	153	152	154	169	159	-6%
燃料(化+廃油)	原油換算 kℓ	502	494	479	512	541	6%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	1,591	1,568	1,527	1,656	1,531	-8%
NO <sub>x</sub>	kg	695	679	712	722	687	-5%
SO <sub>x</sub>	kg	450	439	379	473	450	-5%
排水量	m <sup>3</sup>	40,297	45,616	35,296	42,012	22,201	-47%
COD	kg	206	201	141	176	102	-42%
廃棄物発生量	t	412	460	381	437	326	-25%
社外処理量	t	20	10	11	12	14	17%
最終埋立量	t	0	0	0	0	0	0%
大気排出量	kg	5,119	4,983	3,252	3,812	2,910	-24%
移動量	kg	2,003	1,001	1,002	3,002	2,300	-23%

\*移動量の算出を見直し、過去(2001~2005)の移動量を上表のとおり修正しました。

#### 北海道工場

所在地 北海道白老郡白老町字石山27-5  
電話番号 0144-83-2205

項目	単位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kl	100	97	88	89	100	12%
化石燃料	原油換算 kl	320	248	318	299	203	-32%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	1,000	803	977	934	712	-24%
NO <sub>x</sub>	kg	659	510	655	622	422	-32%
SO <sub>x</sub>	kg	160	124	43	36	277	669%
排水量	m <sup>3</sup>	2,204	1,984	3,098	2,821	1,565	-45%
COD	kg	441	536	1,208	649	454	-30%
廃棄物発生量	t	69	87	113	143	107	-25%
社外処理量	t	69	30	56	71	62	-13%
最終埋立量	t	35	8	21	33	22	-33%
大気排出量	kg	638	65	69	69	15	-78%
移動量	kg	0	2,300	0	0	0	0%

#### 仙台工場

所在地 宮城県岩沼市末広1-2-1  
電話番号 0223-22-1201

項目	単位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kl	50	52	52	73	100	37%
化石燃料	原油換算 kl	94	95	100	120	144	20%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	323	329	343	431	531	23%
NO <sub>x</sub>	kg	193	195	206	250	300	20%
SO <sub>x</sub>	kg	104	126	134	204	197	-3%
排水量	m <sup>3</sup>	1,630	2,109	1,792	2,095	6,035	188%
COD	kg	175	70	36	153	929	507%
廃棄物発生量	t	31	38	44	58	79	36%
社外処理量	t	24	30	36	51	72	41%
最終埋立量	t	10	0	0	0	0	0%
大気排出量	kg	1	2	4	10	19	90%
移動量	kg	0	0	0	0	0	0%

#### 四国工場

所在地 愛媛県四国中央市村松町365-1  
電話番号 0896-24-1001

項目	単位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kl	30	28	30	35	27	-23%
化石燃料	原油換算 kl	80	66	66	65	45	-31%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	256	218	221	225	175	-22%
NO <sub>x</sub>	kg	164	137	137	134	95	-29%
SO <sub>x</sub>	kg	309	553	704	690	441	-36%
排水量	m <sup>3</sup>	51,719	53,567	54,476	46,820	52,020	11%
COD	kg	155	54	109	94	104	11%
廃棄物発生量	t	17	11	6	3	8	167%
社外処理量	t	16	11	6	3	7	133%
最終埋立量	t	1	1	0	0	0	0%
大気排出量	kg	25	18	18	18	18	0%
移動量	kg	0	0	0	0	0	0%

#### ハリマ化成オフィス関連

集計範囲 大阪本社、東京本社、筑波研究所  
名古屋営業所、中国営業所

項目	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kl	135	157	157	158	1%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	200	233	234	236	1%
廃棄物発生量	kg	7,375	5,910	3,390	5,849	-1%

#### 国内関連会社

集計範囲 ハリマ観光、ハリマメディカル  
セブンリバー、ハリマ化成商事

項目	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	05/06増減
電気	原油換算 kl	870	833	810	809	0%
化石燃料	原油換算 kl	91	95	92	75	-18%
CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	1,356	1,311	1,514	1,381	-9%
排水量	m <sup>3</sup>	84,299	67,708	69,088	69,033	0%
廃棄物発生量	t	147	147	135	132	-2%
リサイクル量	t	66	69	52	50	-4%



ハリマ化成株式会社

内容に関するお問い合わせ先

**環境品質管理室**

<http://www.harima.co.jp>

TEL:079-422-3301 FAX:079-426-6008



発行 2007年9月  
(次回発行予定2008年8月)